



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



### 奄美地区信徒大会

10年後の奄美の  
カトリック教会を展望して  
日時: 2月20日(日) 13時  
～  
場所: 名瀬聖心教会

- ①基調講話 13時  
講師: 宮下正昭氏(南日本新聞社 総合メディア局次長)「聖堂の日の丸」(南方新社発行)著者
- ②司教講話 14時10分  
郡山健次郎司教
- ③司教司式ミサ 14時50分

## 特注の信者席で60周年を祝う

### 指宿教会と同付属白百合幼稚園

今年四月一日に満六十歳の誕生日を迎える指宿教会(寝占敦之神父)と同付属聖マリア学園「白百合幼稚園」は昨年十二月二十六日(日)記念ミサをささげ祝賀会を挙行した。

記念のミサは主司式の郡山健次郎司教の他、元主任司祭兼園長の牧山田一神父、幼稚園から小学校までを指宿教会で育った中野裕明神父、それに転勤で指宿に住んだことのある桃菌淳一郎助祭が加わり荘厳にささげられた。

ミサ中、この日のために



喜びいっぱいの指宿教会

用意された跪き台の付いた特注の信者席が祝福された。そしてミサには信者の他に白百合幼稚園の教職員や保護者、それに信者席を製作した長崎教区は紐差小教区の巡回教会・木ヶ津教会所属の信徒二人が参加した。そしてミサ後、主任司祭の寝占敦之神父から、信者席の製作者に感謝状が贈呈された。

指宿教会では、これまで財政的理由で実現できなかった信者席設置をこの創立六十周年の記念として実現させることが決められていたが、その製作者として候補に挙げられたのが先の二人。大工を生業とする二人は木ヶ津教会の信者席を製作した経験を持つ。信者席製作の話がある中、指宿教会の信徒Oさんが五十年ぶりに木ヶ津教会を訪問した。と言うのは、五十年前、当時鹿兒島純心中学校の生徒だったOさんがクラス仲間で募金した七百四十円をシスター山頭の紹

### 教会の十年後の展望求めて

#### 二月二十日に奄美地区信徒大会

奄美地区教会(小隈憲士地区長)では、二月二十日(日)午後、名瀬聖心教会で「奄美地区信徒大会」を開催する。

この大会の狙いは十年後(二〇二〇年)の奄美大島のカトリック教会の展望を探ること。それは希望ある教会の姿を描く作業に取り組みることにある。奄美大島の教会でこのような動きが起こったの

は、二十年ほど前の宣教再開百年を振り返ったため。当時、鹿兒島では全教会がこれまでの宣教の歩みを振り返り、これからの教会のためにビジョンを発表したものの、今日までそのビジョンに対する評価や反省、改善を怠ってきたという反省の上に立っている。そのため奄美大島地区では、昨年二月の「奄美地区信徒・修道者・司祭の集い」

### 新風

中学生の頃、「健全な精神は健全な身体に宿る」というギリシャの格言を教わりました。成長著しいこの頃から、私はこの格言を指針として生きてきました。司祭になって種々の人々と接するうちに健全な精神と健全な身体は必ずしも一致していないことに気づきました。

### 健全な精神と身体

健全な精神の持ち主でも身体的に恵まれていない人や、その逆の人々が多く出会うようになったからです。ですから自分自身の指針としてはいいもの、上記のことを軽々に口にすべきではないと肝に銘じていました。ところがその後、上記の格言は原語では「:宿る」という断定ではなく、「:宿るように」という願望を表しているという話を聞きました。高齢化社会になって、巷ではますます健

### 教区人事

- ▼美島春雄神父(志布志主任・志布志幼稚園園長)は、指宿教会主任及び同付属白百合幼稚園園長
- ▼寝占敦之神父(指宿主任・白百合幼稚園園長)は、教区本部事務局長
- ▼中野裕明神父(教区本部事務局長)は、志布志教会主任及び同付属志布志幼稚園園長
- ※幼稚園関係者の着任は四月一日
- ▼永山幸弘神父(溝辺主任)は、名瀬聖心教会主任
- ▼小隈憲士神父(名瀬聖心主任)は、鹿屋教会主任
- ▼ヨゼフ・タム神父(鹿屋主任)は、種子島教会主任
- ▼坂本進神父(種子島主任)は、溝辺教会主任
- ※着任は四月十日

### YET

久しぶりの深い眠りだった。友人と居酒屋まで来たところ、声をかき止めた。その後は、痛み止めの使えない体質だからとの理由から覚悟はしていたものの驚くような痛みと闘う羽目になり、手術したことをチョッピリ後悔した。十一月下旬に左肩骨折の診断を受けた。しばらく安静にすれば、の期待とは裏腹に動く気配を見せなかつた左腕。精密検査の結果、左肩腱板断裂と分かった。要手術、しかも全身麻酔での手術との説明に二の足を踏んだが、休日で返上でオペしてくれろという主治医の心意気に押され手術を決心した。十年ぶりの手術。「今回は左肩だから楽」と高をくくっていたが、まったくの思い違いだ。術後の痛みもさることながら、ビス三本が入った肩と腕は一定の角度を保つため器具で固定、一人では衣服の着脱もままならない。シャワーを浴びるにも他人の手を煩わしてしまう惨めな姿をさらすこととなった。順風満帆のように感じていた。ここ数年で、自分の中に育ってしまっていた「驕り」のようなものが対峙する羽目となった。▼皆が教会で「降誕」という神の不思議な業を称えていたあの夜、手術を終えたばかりの自分は祈ることなくただベッド上で唸っていた。惨めだった。ただ少しづつ回復していく今、あの入院中に感じた思いをもっと深めなければと気付かされていく。そうでなければ休日返上を「クリスマスプレゼント」と宣言して主治医が施してくれた手術の本当の贈り主に叱られてしまいそうだから。

I 主任司祭の歓迎の言葉  
(出水教会：大松神父)

II 祈りを持って始める。特に三位一体の神を信じ、従う恵みを求めて代表者が祈ります。

前回は続き、「信仰宣言」の子に關しての④「栄光化」について神学的にどのよう捉えたいのか、今回も学びを中心としながら深めて行きたいと思えます。参考文献としては「カトリック教会のカテキズム」(カトリック中央協議会発行、二〇〇二年発行)を使用致します。

④ 栄光化 (前掲書六五九-六八二項参照)

① 使徒信条「天に昇って、全能の神である父の右の座に着き」

「主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた」(マルコ一六・19)信仰宣言はこのマルコの証言を踏襲しています。復活されたイエスは天に上げられる前、四十日に亘ってご自身を弟子たちに親しく頭わさされましたが、その栄光はまだ隠されたままです。昇天後、初めてイエスは決定的に神の栄光の内に入られました。以後、イエスは神の右の座に着いておられます。(前掲書六五九項)

四十日の間、復活されたイエスの栄光が覆われていたことは、マグダラのマリヤへの言葉からうかがい知ることが出来ます。「私にすがりつくのはやめなさい。私はまだ父のもとに昇ってはいないのだから。私の兄弟の所に行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父であるかた、また私の神であり、あなたがたの神であるかたのところに私は昇る』と」(ヨハネ

二〇・17) 復活されたイエスの栄光と昇天後のイエスの栄光との間には何らかの相違があり、完全な栄光化は昇天によって完成します。(前掲書六六〇項)

昇天後の栄光化は受肉の神秘と深く関わっています。「父のもとから出た」方、つまりキリストだけが「父のもとに戻る」ことがおできになるのです。「天から下ってきた者、すなわち、人の子のほかに、天に昇った者はいない」(ヨハネ三・13) 人間は自然の力で神のいのちと至福に入ることはできません。ただ、キリストだけが人間にこの道を開くことがおできになりました。(前掲書六六一項)

北薩地区宣教奉仕者 (信徒使徒職) 養成講座

信仰宣言を神学的に捉える⑤

出水教会主任司祭 大松 正 弘

② 使徒信条「生者と死者を裁くために来られます。」

1 キリストは栄光のうちに再び来られます。「キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きていく人にも主とされるためです」(ローマ一四・9) キリストの昇天はその人性において神ご自身の権能と権威にあずかられたことを意味しています。イエス・キリストは主とされ、天においても地においても全ての支配をお持ちです。(前掲書六六八項)

主であるキリストはその体である教会の頭でもあります。天に上げられ、栄光を受けて、使命をまっとうされたキリストは地上でご自分の教会のうちにとどま

し、それはまた、いまだに苦悩のしるしを帯びている時、教会を容赦せずに終わりの時の戦いの火ぶたを切る悪による試練を抱えた時、目覚めて待望する時なのです。(前掲書六七二項)

イエスの昇天以後、私達には「父がご自分の権威をもってお定めになった時や時期がたとえ分からなくても、キリストの栄光の来臨は差し迫っています」(前掲書六七三項)

栄光のメシアの到来がいつ実現するかは全イスラエルがいつイエスをメシアだと認めるかにかかっています。(ローマ一・20) 異邦人全体に続いてユダヤ人の全体がメシアの救いに預かるようになる時に初めて、

とき、すべての人を自分のもとに引き寄せる」(ヨハネ一二・32) イエスは「人間の手で造られた聖所ではなく、天そのものに入り、今や私たちのために神の目前に現れて」(ヘブライ七・25) 下さいました。この方は常に生きていて、ご自分を通して神に近づく人々のために執り成しておられるのです。(ヘブライ七・25) (六六二項)

御父の右の座とは神としての栄光と誉の意です。永遠から神の御子として、また御父と同一実体の神として存在しておられた方が、人となられ、その肉体が栄光を受けられた後は、からだをもつてそこに坐しておられるのです。(前掲書六六三項)

神の民はキリストの満ち溢れる豊かさになるまで成長するでしょう。その時神が全てにおいて全てとなられるのです。(前掲書六七四項) キリストの来臨の前に、教会は多くの信者の信仰を動揺させる最後の試練を経なければなりません。人生の諸問題の見せかけの解答を人々に与えて真理を捨てさせる偽宗教の形をとった反キリスト、つまり人間が神と受肉された神の御子であるメシアに代わって自らに栄光を帰する、偽りのメシア観です。(前掲書六七五項)

教会は、死んで復活された主に従って最後の過越しを経なければ、み国の栄光に入ることは出来ないでしょう。み国が完成するの

は、悪の最後の猛攻に対する神の勝利によってなのです。この世界の最終の崩壊の後に最後の審判として現れます。(前掲書六七七項)

2 生者と死者を裁くため イエスは説教の中で最後の審判について預言されました。その時、各自の行為と心の秘密があらわにされるでしょう。そして神が与える恵みを顧みなかった咎めるべき不信者が断罪されるでしょう。隣人に対する態度が、神の恵みと愛とを拒否したか、あるいは受け入れたかを明らかにするはずで、イエスは最後の日に「私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである」と言ってお下さるでしょう。(マタイ二五・40) (前掲書六七八項)

.....

「+KABAYAN SEKSIYON+」  
"Si Kristo ang ating Katotohanan"

Sa bahaging ito, pagninilay-nilayan natin ang pagpapalalim sa pagkilala at pagsampalataya kay Kristo ang ating katotohanan. Ang Pananampalatayang Kristiyo ay nakatuon kay Jesu-Kristo, na siyang mismong "ang Daan, ang Katotohanan at ang Buhay." (Jn 14:6)  
Sa bahaging ito ay ipinapakilala si Kristo, ang ating Katotohanan, o Doktrina. Bilang ating "katotohanan", si Kristo ang bukal ng ating buhay bilang mga Pilipinong Katoliko, ang hinahanap natin para sa sariling pagkakakilanlan, para sa pangunahing kahulugan sa buhay. Nagbibigay-kahulugan siya maging sa ating pagdurusa, at itinutuan ang ating mga personal na pagtatalaga sa loob ng isang pananaw na bukas sa espirituwal. Matalik siyang nakikipagugnay sa atin sa pamamagitan ng kanyang Inang si Maria. Kaya si Kristo ang nasa sentro ng mismong Pagpapahayag ng Diyos ng kanyang sarili na dumarating sa pamamagitan ng kalikasang nakapaligid sa atin, sa Biblia, sa Simbahan, at sa ating mga personal na karanasan sa pang-araw-araw na buhay. Siya ang sentro ng ating tugon sa pananampalataya, sa pag-iisip, pagkilos at pananalangin. Habang ipinagmamapuri an gating Kristiyanong Pananampalataya, araw-araw tayong nakikipagbuno sa mga tukso at sa hatak pababa ng kawalang-pananampalataya. Si Kristo sa Kredo ang umaakay sa atin tungo sa katotohanan ng Diyos nating Ama na NGAYO'Y lumilikha sa atin at sa buong daigdig sa pinananahanan ng kanyang Espiritu. Si Kristo, na ipinangako sa pamamagitan ng mga sinaunang propeta, ay dumarating sa atin sa mga kinasihang pahina ng Ebanghelyo at sa mga sulat sa Bagong Tipan. Itinuturo nila sa atin kung sino si Jesus at isinilang sa ating daigdig sa pamamagitan ng Mahal na Birhen, at "itinalaga" ng Ama upang maging ating Tagapagligtas. Sa pamamagitan ng kanyang Krus at Muling Pagkabuhay, pinalaya tayo ni Kristo mula sa pang-alipin ng kasalanan at naghayag sa atin ng pangako ng buhay na walang hanggan. Muling nabuhay at umakyat sa kanyang Ama, si Kristo ay nananatili sa atin hanggang sa wakas ng pahanon sa pamamagitan ng pagsusugo sa atin ng kanyang Espiritu. (Katesismo-Pilipinong Katoliko)

[和善の窓から] その①⑥

大丈夫！エレミヤの祈りから

松田清四朗神父 わたしの頭が大水の源となり、わたしの目が涙の源となればよいのに。そうすれば、昼も夜もわたしは泣こう、娘なるわが民の倒れた者のために。(エレミヤ8:23)  
何と美しい祈りでしょう。とくに「夜も昼もわたしは泣こう」というフレーズで胸が詰まります。何も考えられない、思いそのものが細かく千切れ飛ぶ…。そういう時…わたしの頭が大水の源となり、…夜も昼もわたしは泣こう…と、何度も繰り返し、枕を濡らす。  
自分が大病をしたせいだからでしょうか。病気に苦しむ多くの人々、あるいは病気の人の介護をしている人々から、以前よりも多くお祈りを頼まれるようになりました。喜んでお引き受けします。ミサの中でのその祈りは、たぶんその人の「涙」に心を合わせ、ただただいっしょに泣くという祈りになるのです。



祈りは、感謝の祈りにせよ、嘆願の祈りにせよ、涙となって溢れてくるように思います。その涙が決して涸れることのないように

「わたしの頭が大水の源であるならば」と、エレミヤは祈ります。この心を震わす祈りを唱えながら、きっとキリストがおっしゃっているはずの言葉を伝えたいのです。祈りの手で触れてあげたい。「大丈夫だからね！」

※このような素敵な言葉をご自分で見つけ、時には筆写して机の上に、あるいはご自分の手持ちの聖書に貼り付ける。こういうことも和善の聖書の取り組みの一つです！

- ＝和善の案内＝
- 月 18時30分
- 水 14時00分 (第2,4 於始良)
- 水 WAZEN ころろ相談室 (第1,3: 要予約 = 10時10分から = 45分間)
- 金 10時00分 ※いずれも本部3階にて
- 和善のミサ 2月25日 (金) 17時30分 (和善ブログ <http://mr826.net/wazen/blog>)

# 長寿の島・徳之島に長寿の終身助祭

## 池上聖行さん(八十七歳) 叙階

昨年十二月十九日(日)午前十時から徳之島のカトリック母間教会で終身助



祭叙階式が行われた。叙階されたのはフランシスコ・ザビエル池上聖行さん(八十七歳)。

式は郡山健次郎司教主司式で、教区内外からの九人の司祭による共同司式ミサの中で行われた。福音朗読の後、福崎英雄神父(母間教会主任司祭)の呼び出しで司教の前に立った受階者は、高齢とは思えないほど直立不動の姿勢を保ったまま、はっきりと司教との約束を宣立し、諸聖人の連願が歌われる間は祭壇前の床に伏せた。そしてその後、司教の按手と聖霊の注ぎの祈りにより、めでたく終身

助祭の聖位に上げられた。叙階されたばかりの池上師は助祭服を着た後、司教から熱い抱擁を受け平和の挨拶をした。さらに共同司式した司祭とも抱擁、そしてこの式のために駆けつけていた終身助祭たちも

## 青年司牧見直しの好機

### WYDに一人でも多くの若者を

今夏(八月十六日)二十一日)、スペインのマドリッドでWYD(ワールドユースデイ)世界大会が開催される。WYDは

新助祭を兄弟として迎える意味で抱擁した。聖堂には百五十人余りの信者の熱気が溢れていた。式後の祝賀会では新助祭を師と仰ぐ人々が信者、未美信を問わず祝辞や感謝の言葉を送り喜びを分かち合った。主任司祭の福崎神父は「池上さんはそれまでは腰が曲がって杖が必要などだったが、叙階が決まったからは腰が伸び、教会の庭の剪定もできるようになった」と叙階の恵みの

効果に驚いていた。終身叙階式実行委員会はプロフィールの末尾に「池上聖行師は、五十年余り、宣教師、修道者とともに、徳之島の宣教、司牧活動を支え続けてこられた。このことは島民衆目の一致するところである。私たち共同体は、池上聖行師が終身助祭に叙階されたことを神に感謝し、頂いた恵みを一人でも多くの人に伝えられるよう師に倣いたい。」と記している。

## 信者のタイガーマスク運動

### 司教執務室便り

去る十二月二十五日のクリスマスに「伊達直人」を名乗る人から群馬県の児童相談所にランドセル十個が届けられたのが始まりで、全国各地でこうした匿名の慈善行為が発生し、タイガーマスク運動と呼ばれた。識者がいろいろのコメントを出していたが、中には一時的な現象だと言う人も。たとえそうだとしても善意の伝播は大いに歓迎だ。なによりも、暗いニュースばかりが報じられる中で私たちの心に爽やかなぬくもりのある風を運んでくれたことは間違いない。

ところで、信者はタイガーマスクみたいなものではないのか。ふとそう思った。マスクをかぶるわけではないが、「普通の人」というマスクをかぶっていると考えることができないわけではない。また、匿名で何かを寄付するわけでもない。しかし、安



心感とか希望、喜び、共感などという形にできない寄付をなすことはできる。「先生と神さまに全部お任せしていただくから心配していません。」ガンを告知されたシスターのあつげらかんとした言葉に主治医も驚いたという。「先生も治療がしやすかったでしょうね。」聞いていた一人が言った。先生の負担を軽くしてあげて帰って来たという。さしずめタイガーマスク運動心編というところか。病気にちなんでもう一つ。子供の頃父がよく言っていたのは「自分もあんなふうにならないうに爽やかに逝きたい。」父の手を握りながら「お先に待って待っています！」と言った大往生を遂げた村の校長先生が父の憧れだったからだ。難病やさまざまな不幸に苦しむ方々のため癒しの祈りを捧げ続けるのも、気持ちのいい挨拶や返事、謙虚な言葉遣いなどなど卑近なかかわりの中でのこうした生き方こそ信者の真骨頂であり、ランドセルを贈るのに勝るとも劣らない信者のタイガーマスク運動。

一九八五年を国連が「世界青年の年」と定めたことを受け、教皇ヨハネ・パウロ二世が青年たちにローマに集うよう呼びかけたことに始まる。その後、毎年「受難の主日」が「世界青年の日」と定められ、教皇庁信徒評議会が主催して二、三年ごとと世界各地でWYDの世界大会を開催している。今年大会は日本からは郡山司教を団長とする約三百人が、この同じ信仰を持つ青年たちが出会いを通して、キリストの受難と復活の神秘を祝う巡礼の旅に参加する予定となっている。

この催しに鹿児島から一人でも多くの青年に参加して欲しいという教区司祭団は、青年担当司祭と協力して参加者を募ったところ一月中旬ですでに八人の申込があり、今後まだまだ増えそうな勢いである。募集に当たって担当者が行ったのは「教会に若い人はいない」と言われる現状の確認作業。その結果、WYDの参加対象となる十八歳から三十五歳の信徒が教区内に

## 五月一日に列福

### ヨハネ・パウロ二世

一月十四日(金)、教皇庁広報部は、前教皇で尊者・神のしもべヨハネ・パウロ二世(カロール・ヴォイティワ)の列福式を今年五月一日に教皇ベネディクト十六世司式で行うことを発表した。

ヨハネ・パウロ二世の列福調査は二〇〇五年から始められ、教皇ベネディクト十六世は二〇〇九年にヨハネ・パウロ二世を尊者とすることを宣言していた。

## 2月の会と催し

- 2日(水) 主の奉獻
- 4日(金) ボツフィ神父命日(一九八八年)
- 5日(土) 日本二十六聖人殉教者
- 6日(日) 年間第五主日
- 11日(金) 祭壇奉仕者選任式・ザビエル教会・9時
- 13日(日) 世界病者の日
- 14日(月) 年間第六主日
- 20日(日) 漢マ神父霊名(ヨルダン)
- 20日(日) 宣教奉仕者の会・教区本部・13時30分
- 22日(火) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 27日(日) 年間第七主日
- ▼奄美地区信徒大会・聖心教会・13時
- ▼東條一浩神父命日(二〇〇一年)

## 坂本 進神父の講座

- ①ホリスティック・スピリチュアルケア講座「病気のとらえ方」2月15日(火) 18時30分~21時 千円
  - ②ホリスティック黙想会「おむすびの祈りと食生活」2月21日(月) 10時~12時 五百円
- ※いずれも会場はザビエル教会一階ホール

## 終身助祭叙階式

日時 三月六日(日) 午後二時  
場所 鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂  
司式 郡山健次郎司教  
受階者 使徒ヨハネ 川口 茂(加世田教会) マルチノ 石神秀人(阿久根教会)

## ベトナム巡礼

—ホーチミン、ニャチャン、  
ヴンタワー—  
3月20日出発 3月24日帰国  
費用: 14,8000円  
定員: 20人(最小催行人員15人)  
同行: 郡山司教、ティエン神父  
※申込締切は3月1日

### 問合せ・申込

巡礼委員会(徳永善博)  
電話 099(206)7221  
携帯 090(3669)

文芸

純心学園 川上 和  
初雪や聖母も微笑む初日のミサ

出水市 沖 弘子  
息災に生きて天与の初日の出

霧島市 政 ノブ子  
年はじめ共同祈願読む恵み

純心学園 山頭 信子  
指宿に主は在りまして「信徒席」

愛光園 春山マリ子  
洗礼に祝い花かご手にこぼれ

愛光園 春山マリ子  
雪を見て命嬉しい独り言

霧島市 市来 房枝  
ミサあげる神父さまの手の動きお茶の作法によく似てゐたり

教会の庭に枯葉の吹き溜りユーカリの木

には若芽伸びゆく  
折りをりに忘れぬようにと口ずさむ英語  
にて学びしクリスマスマスの歌

純心学園 川上 和  
聖夜ミサ光を受けし教え子の真白き  
ヴェール素顔を包む

大笠利 稲 牛憲  
一生を袖を織りて逝きましし母は袖を着  
ることなかりし

奄美市 林 明子  
その笑顔わが身をいやす天使だねすくす  
く育て奄美のやちやぼう

奄美市 林 常広  
口喧嘩新婚の時を思い出し互いの指輪見  
て苦笑い

伊佐市 森 博伸  
空を見る渴けるころのつばやきを盲い  
た想いを天に問いつつ

鹿児島市 前田 儀子  
時雨れつつ夕日がさつと射すときに桜島  
は大きな虹の弧を抱く

高空を風唸りて吹くいく日か高き椿は赤  
き花落す  
葉を送りやがて骨瘤の木とならむ大き銀  
杏は足をふんばる

神さまの小道

指宿教会の信徒席を巡って

九州の北、その最西端に  
小さい教会がある。木ヶ津  
教会。その教会の木工さん  
が手作りした「信徒席」が  
九州の南の指宿教会にクロ  
ネコヤマトで運ばれた。



設置された指宿教会の信徒席

椅子専門でもない大工さ  
んに指宿教会のため、神父  
様と信徒の方々から直接頼  
まれた。「跪いて祈る」た  
めの椅子を何度も試して、  
メジャーはいつもポケット  
の中に入れて歩き、作り上  
げた。信徒会長のNさんは  
「私たちは椅子を頼んだの  
ではありません。信徒が跪  
いて祈るようになるための  
信徒席をお願いしました」  
とおっしゃった。

自分の作品がどんな場所  
に使われ、どんな人に跪い  
てもらえるのか、自分の目  
で確かめ、信徒を知りたい  
と思ひ、指宿という初めて  
の教会にやって来た。そし  
てこれならやるぞと決め  
た。信徒席を作り始めると  
同時に禁煙を一発で実行し  
た。

六十周年を迎える教会と  
白百合幼稚園は、同い年。  
歴代の主任神父様は教会の  
内部を整える余裕はなかつ  
た。折畳み椅子を並べてミ  
サにあずかっていた。  
折しも折り、信者のOさ  
んが純心卒業の友人が長い  
間ブラジルで働いていた  
が病気で帰国していると聞

出合い 稲 牛憲さん (大笠利)



昨年十一月の下旬、素敵な旅の人がいるとの声に  
ザビエル教会ホールに足を運ぶと何とも味わい深い  
おじいちゃんとの対面となった。  
さんだった。八十四歳で、一人旅の途中だという。  
自分の洗礼名と同じ名の教会を一目見ようと足を運  
んだそう。ここに至るまでも長崎、大分を巡っ  
ている。両肩にはクロスに掛けたカバンが二つ。そ  
して手には大きな紙袋。そんな出立ちで各地を回っ  
てきたのだ。この日の予定もまだ未定。孫と連絡が  
取れば鹿児島に一泊、そうでなければ島に帰るっ  
てな具合。こうなると旅のというより、生き方の大  
ベテランだ。ま、そ  
うでなければ教区報  
文芸欄に「亡き妻の  
時かけてためしヘソ  
クリを一人巡礼の旅  
に使わん」なんて投  
稿しなかつたのかも  
。

き、同級生を誘って長崎ま  
でお見舞いに出かけた。集  
まったのは、たまたま五十  
年前、貧しい木ヶ津教会  
建設に生徒会でした募金を  
自分たちで届けた仲間たち  
だった。「あの教会は今も  
残っているのかしら？行っ  
てみよう」ということにな  
り出かけた。  
お見舞いをした友人の紹  
介で訪ねた木ヶ津の信者さ

頼娃から転動して谷山に  
住み、早速レジオ・マリエ  
に入りました。数年経った  
頃、兄・大野和夫神父から  
「信徒錬成会(クルシリヨ)  
をやるが出てみないか」と  
言われました。三日間もあ  
ると聞き、尻込みして最初  
は断りましたが、二度目の  
誘いには心動かされ参加す  
ることにしました。

錬成会は、朝の祈りに始  
まりミサ、その後十回もの  
講話がありました。驚き  
だったのは講師を務めるの  
が全員信徒だったこともで  
すが、分刻みのプログラム  
にもビックリしました。期  
間中、腕時計は外され、講  
話の後はその後に分ける分  
ちが三つに分かれて演じる  
クルシリヨ劇場などなど、  
居眠りする間もありません

でした。そんな錬成会の締  
めくくりの食事では、参加  
者全員が苦しみを乗り越え  
てきたことが分かり、涙が  
流れるのを抑えることがで  
きませんでした。  
翌年になると今度は私  
が錬成会の講師をするよう  
請われました。口下手な私  
は「とても務まらない」と  
断りましたが、「信じる者  
は何でもできる」を引き合  
いに出され、引き受けさせ  
られたのです。与えられた  
テーマは「指導者」でした。  
話すことを原稿書きにして  
提出するよう命じられ、試  
行錯誤しました。指導者と  
して頭に浮かんだのは、織

みことばシリーズ⑩

やれば、できる！

終身助祭 久保俊弘

田信長、豊臣秀吉、徳川家  
康などで、それらの人物分  
析からよい指導者について  
書いたところ、霊的なもの  
が感じられないと没にされ  
ました。合格をもらうまで  
には三度の書き直しが必要  
でした。  
やっとの思いで講師役を

教区の韓国人神学生  
祭壇奉仕者選任式  
日時: 2月6日(日) 9時  
場所: ザビエル教会  
司式: 郡山健次郎司教  
被選者  
①ドミニコ・ソン・ジン・オック  
神学生  
②アントニオ・ジェオン・ペオブ・  
ジョン神学生  
※韓国で学び、鹿兒島教区の司祭を目標  
している二人のために一人でも多く  
の方がご参列くださいますように!

んたちは、「恩人が訪ねて  
来られた」(現地の寄付者  
はほとんど亡くなってい  
た)と伝えると、かから団  
子を作ってくる者、赤飯を  
炊いてくる者。教会の庭  
は、にわか宴会のように賑  
やかな歓迎ぶりだった。  
その後、木ヶ津教会と  
指宿教会は交流が始まり、  
「その温かいもてなしはど  
こにでもあるもてなしとは  
まったく違っていた、心か  
らのものだった」とOさん  
は言った。この教会でOさ  
んは恩人のため五十年間、  
祈り続けられていたこと  
を知った。自分たちのため  
五十年間も祈ってくださ  
っていた人たちがいたと知  
って驚いた。  
神さまの小道は祈りが続  
けられている限り共にいて  
くださって導いておられ、  
必ず実らせてくださる。心  
動かす出来事はいつも小道  
から始まる。感動した指宿  
教会の「信徒席」祝別だっ  
た。(式典参列の一修道者)